

6カ国の30人がお茶会

四日市 青井さんらおもてなし

NPO法人愛伝舎

【四日市】四日市市河原田町のNPO法人愛伝舎（坂本久海子理事長）は九日、同所で多国籍お茶会を開き、ペルーやバ

ングラディシユ、中国など日本を含めた六カ国の約三十人が茶道の世界に触れた。

在日外国人が日本の文化を知る機会を持つとともに、日本人との交流を深めるのが狙い。

鈴鹿市下箕田一丁目の自宅で裏千家の茶道教室を開く青井式子さん（左）ら三人がお茶をたて、茶会形式で参加者らをもてなした。

で写真を撮っていたベトナム人の派遣社員、ハ・コン・クアンさん（三才）は「抹茶が好きで毎日飲んでいるが、茶道具を見たのは初めて。興味深い」と話していた。

坂本理事長は「多文化共生には、日本人が大事にしている文化や歴史を知ってもらうことが大事」と話した。

（蔵城洋子）



参加者らは「茶わんを右手で持つてから左手に移し、手のひらの上にのせて感謝した後、手前に二回回す」など、説明を聞きながら茶道の作法を学んだほか、茶せんを使っ

て自分でお茶をたてる体験をした。

参加者の一人、桑名市立日進小四年のブラジル人、吉川メケミさん（三才）は「お茶をたてる体験をする参加者らに四日市市河原田町のNPO法人愛伝舎で

伊勢新聞 2024年3月10日掲載